国立大学法人山口大学の中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」であることを理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動と教育の実践を最大の使命に掲げ、中期目標の達成を目指している。また、平成 18 年度に制定した「山口大学憲章」に基づき、次期以降の中期目標期間を見据えた「明日の山口大学ビジョン」を策定し、大学の将来像と実現のための運営方針を示し、教職員の意識改革を高め、全学で目標の実現に向けて取り組んでいる。

中期目標期間の業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、海外短期語学研修制度の導入、知的財産に係る指導的教育者の養成、教育的・専門的立場で選定した図書と学生の視点で選定した図書を効果的に購入するシステムの構築、全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会の充実、ボランティア活動の単位化、外国語の能力別クラス編成や学部・学科ごとの認定基準の制定等の取組を行っている。

研究については、環境共生学及び生命科学分野の研究組織を「スーパー研究推進体」等に選定する戦略的な研究力の推進、特許検索システム（YUPASS）の構築、学生を特許インストラクターとして育成するシステムの開発、独自の文理融合型の研究等を活かした時間学研究所の設置や「やまぐち学」の構築等の取組を行っている。

社会連携・国際交流等については、国際協力銀行との協力協定の締結による中国内陸部の現職教員に対する人材養成、「山口国際協力の里ネットワーク推進会議」等による積極的な開発途上国等の調査・研究の推進等の取組を行っている。

業務運営については、学長のリーダーシップの下、学長裁量経費（戦略的経費）について、自己点検と次年度の見直しを行う仕組みや、プロジェクトの複数年化ができるよう資源配分の工夫改善を図っている。また、業務改善効果を上げた者等に対し、学長表彰を行うなど、業務改善への取組を推進している。

財務内容については、外部資金の受入れについて、大学独自の支援や地域活動を展開しており、産学で一体となり取り組んできた活動等が実を結び、共同研究、受託研究及び寄附金による外部資金が増加してきている。

その他業務運営については、施設実態調査情報や部局単位のエネルギー使用量等をデータベース化したマネジメントシステムを構築し、施設マネジメントに取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．教育研究等の質の向上の状況

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 教育の成果に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 教育内容等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（17項目）のうち、３項目が「良好」、14 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、１項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(4) 学生への支援に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「「インターナショナル・キャリア・アップ・プログラム」を実施することにより、異文化理解を促進し、豊かな国際感覚をはぐくむ」について、海外短期語学研修制度を導入し、語学習得やホームステイ、文化体験を介して異文化理解を促進させ、参加者も多いことは、優れていると判断される。

○　中期計画「各研究科において、専門的職業人育成のため、実践的な内容を考慮したカリキュラムを編成する」について、技術経営分野では、ケーススタディを取り入れた実践的教育を実施したこと、また、知的財産分野では、知的財産教材の開発等、高い水準の教育を実施した結果、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、知的財産に係る指導的教育者の養成に取り組んだことは、優れていると判断される。

○　中期計画「学術情報機構は、教育活動基盤資料として、電子ジャーナルを含む教育基盤雑誌、データベース、教育基盤図書を計画的に整備し、教育情報提供機能の一層の充実に努める」について、教職員が教育的・専門的立場で選定した図書と学生の視点で選定した図書を効果的に購入するシステムを構築し、教育情報提供の充実を図っていることは、学生の学習環境の整備に寄与しているという点で、優れていると判断される。

○　中期計画「山口大学独自のワークショップを中心としたFD（Faculty Development）の内容と方法を確立し、FD 研修会の充実に努める」について、全学的 FD 研修会の機能強化に、授業技術、教育評価及びメディア利用等のテーマごとのアラカルト方式を導入し、研修会の充実を図ったことにより、FD 研修参加者が増加したことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「卒業時点で十分なコミュニケーション能力の獲得を可能とする「TOEIC を利用した修学システム」を充実させるとともに、言語教育の実施機能を充実させることによって、外国語の実践的コミュニケーション能力を向上させる」について、能力別クラス編成や学部・学科ごとに認定基準を定めて、英語のコミュニケーション能力を向上させる取組を行っており、TOEIC スコアの平均点が上昇していることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「地域社会の中で、学生が主体的・自主的に取り組んでいる活動や学内インターンシップなどを「自己発見育成授業」として実施する」について、学生グループが自主的に企画した特定のテーマを審査選考し、資金面等の援助を行う事業や共通教育科目として「地域と出会う～ボランティアと自主活動～」を開講し、ボランティ

ア活動の単位化を行っていることは、学生の自主性を高揚させる点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「学術情報機構は、大学全体の情報基盤整備、情報化推進を戦略的に進める」について、事務組織の再編を行い、大学情報の流通マネジメント体制を一元化し、教育・学習等を行う上で必要な学術情報基盤の整備に対し、体制を強化したことは、情報化推進を戦略的に推進している点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画で「「キャリア・デザイン支援プログラム」による教育を入学時から実施する」としていることについて、新入生を対象に共通教育科目として「キャリアデザイン」、また、２、３年生を対象に「キャリアと就職」を開講していることは、早い時期から学生に進路選択に関する意識を持たせている点で、特色ある取組であると判断される。

(II) 研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

【判断理由】「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である

［判断理由］「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である

［判断理由］「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（８項目）のうち、２項目が「良好」、６項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「競争力があり今後の発展が大いに期待できる医工学、環境共生学および生命科学の分野を中心とした研究領域を支援する」について、医工学分野や医療関連分野の研究水準は、高いレベルにあり、特に環境共生学及び生命科学分野の研究組織を「スーパー研究推進体」等に選定し、戦略的に研究力の向上を推進していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「知的財産にかかわるデータベースを構築し、強い特許を創出する体制を整備する」について、「特許検索システム（YUPASS）」の構築や学生を特許インストラクターとして育成するシステムの開発等、新たな試みを積極的に実施していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「人文・社会科学系と自然科学系との連携・融合や、地域の特色を活かした山口大学の独自領域を開拓し、支援する」について、時間学研究所の設置や「やまぐち学」を構築していることは、独自の文理融合型の研究や地域の特性を活かした研究を推進している点で、特色ある取組であると判断される。

（III）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である
【判断理由】「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

［評価結果］中期目標の達成状況がおおむね良好である
［判断理由］「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

３．優れた点、改善を要する点、特色ある点

（優れた点）

○　中期計画「国際協力機構等の東アジアを中心とした事業へ積極的に協力する」について、国際協力銀行と協力協定を締結したことにより、中国内陸部の人材育成事業を推進し、特に中国内陸部の現職教員に対する人材養成として、68 名を受託研究員として受け入れたことは、国際社会に積極的に貢献している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「国際貢献に関する情報を収集、広報し、教育研究活動を支援する体制を整備する」について、「国際協力の里」基本構想を策定し、基本資料として「山大国際協力人財（材）BANK」を取りまとめ、「山口国際協力の里ネットワーク推進会議」や「国際協力活動推進プラットフォーム」を立ち上げて、積極的に開発途上国等に対する調査・研究を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

（２）附属病院に関する目標

臨床研修プログラムの充実を図るために、地域医療機関等を訪問し協力要請を行うとともに、コミュニケーション法の教育として模擬患者との診察実習や女性医療研修プログラムの作成等、積極的に実施している。また、分子生物学的、分子病態学的研究、再生移植医療等の推進を行っており、５件の高度先進医療も提供している。診療では、女性に配慮した総合診療等の実施や、山口医療情報ネットワークの IT を活用した地域医療連携等、独自の取組が行われている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　教育・研究面

・　山口医療情報ネットワークを活用して、地域医療機関との遠隔カンファレンスの毎週開催や放射線科における検診の画像診断支援が行われている。

・　医工連携のシステムによる新たな医療機器の開発に積極的に取り組んでいる。また、臨床試験支援センターを中心として、臨床試験・臨床研究等のサポートを行う体制を構築、臨床試験の充実を図っている。

○　診療面

・　ミニ移植、経皮的カテーテル治療、内視鏡手術等、低侵襲医療を積極的に推進している。

・　病床再配置の見直しとして、集中治療管理室（ICU）（４床増）、外来腫瘍治療ベッド（４床増）、無菌病室（３床増）の増床を図るとともに、継続保育室（GCU）の新設（５床）等に取り組み、地域社会からニーズの高い分野における診療体制の整備・充実を図っている。

○　運営面

・　民間シンクタンクによる経営分析を実施するとともに、部署ごとにアクションプ

ランを作成して、経営指標に対する目標値を設定し経営改善に取り組んでいる。

・　診療情報管理士による病棟ラウンドを実施、在院日数の在り方や診療報酬請求書の指導・助言、コーディング勉強会の開催等、請求漏れ防止体制を強化している。

（３）附属学校に関する目標

附属学校は、平成 16 年度より附属学校運営委員会及び附属学校部を設置しており、附属学校運営委員会は審議組織として、中期目標・計画の推進体制の整備、各年度の計画の策定と実績評価に取り組み、附属学校部は業務実施組織として、共同研究に関する協議、研究課題の設定を行っており、学部と附属学校園が一体的に運営に当たるための組織体制を整備している。

各附属学校園において、地域の学校教員を対象とした公開講座や公開セミナーを積極的に開催し多くの参加者を得ており、また、附属特別支援学校は地域における教育基幹校園として先導的な教育・研究の成果を地域に還元しており、中期計画達成に向けた着実な取組が行われている。

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　平成 16 年度に教育実習部、教育企画部を設置し、学部教員・附属学校教員・学部学生を対象とした意識調査の結果を基に、実習の実施方法の点検及び評価方法の見直し、講義内容・方法の改善、教育実習の参加要件や実習中の学生のトラブル対応について取りまとめた「教育実習の参加要件等に関する指針」を策定するなど、学部との連携による教育実習プログラムの整備に取り組んでいる。

○　附属教育実践センターにおいて、附属学校園をフィールドとした学部・附属共同研究を公募し、「理科指導実践研究」や「放課後質問教育」等、平成 16 年度から 18 年度において、延べ 28 件の研究助成を実施している。また、これらの成果を「学部・附属教育実践研究紀要」及び「教育実践総合センター研究紀要」として発表している。

（Ⅳ）定員超過の状況

○　平成 16 年度から平成 19 年度まで一貫して人文科学研究科の定員超過率が 130 ％を上回っていることから、今後、速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善を行うことが求められる。また、平成 19 年度において、技術経営研究科の定員超過率が 130 ％を上回っていることから、今後、入学定員の見直しを含め定員超過の改善に努めることが求められる。

Ⅱ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標
①　運営体制の改善
②　教育研究組織の見直し
③　人事の適正化
④　事務等の効率化・合理化

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　山口大学の中長期の将来像として、「明日の山口大学ビジョン」を策定している。また、「山口大学の学術研究推進戦略の在り方（プラン 2007）」を策定し、研究推進に関する全体計画、社会貢献活動の在り方等について、法人全体での取組を明確にしている。
○　学長のリーダーシップの下、学長裁量経費（戦略的経費）については、平成 19 年度で２億 4,500 万円（対平成 16 年度比 1 億 2,100 万円増）とするほか、各部局での自己点検と次年度の見直し等が必然的に行える体制の整備や、プロジェクトの複数年化ができるよう資源配分の工夫改善を行っている。
○　学部横断や外部に開かれた研究の促進を目的として、「研究推進体」制度を構築し、平成 19 年度までに 42 のグループを認定しており、外部資金の獲得等に進展するなど取組の効果が現れている。
○　女性教員の採用について、大学で定めた教育職員選考に関する基本方針に基づく積極的な採用、公募状況調査及び分析、登用に関する情報交換等の取組により、平成 19 年度の女性教員数は 121 人（対平成 15 年度比 19 人増）、女性教員比率は 13.9 ％（対平成 15 年度比 2.6 ％増）となっている。
○　国際企画課と留学生課を再編し国際課に一元化、基本委員会を廃止するとともに 56 の全学委員会を 40 に統合整理するなど管理運営組織のスリム化・効率化に向けた体制整備に取り組んでいる。
○　業務改善効果を上げた者、業務改善に資する優秀な提案を行った者に対し、学長表彰を行うシステムを導入し、平成 19 年度までに管理運営業務改善部門で 36 名を表彰している。
○　学外有識者から大学の業務運営、財務等に関して指導・助言等を受ける大学アドバイザリー制度を導入している。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 38 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標
①　外部研究資金その他の自己収入の増加
②　経費の抑制
③　資産の運用管理の改善

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　外部資金の受入れについて、大学独自の支援や地域活動を展開しており、産学で一体となり取り組んできた活動等が実を結び、平成 19 年度の共同研究、受託研究及び寄附金による外部資金は 26 億 4,262 万円（対平成 15 年度比 9 億 2,274 万円増）となっている。
○　その他自己収入では、大学開放を積極的に行い、大学開放授業、公開講座の増加、シニア・サマーカレッジの開催等に取り組んでおり、平成 19 年度は 378 万円（対平成 16 年度比 202 万円増）となっている。
○　電力契約の長期契約化、複写機の契約方式や電話料金契約等の見直しにより平成 19 年度までに 4,000 万円を超える経費削減を行っている。
○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 14 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
①　評価の充実
②　情報公開等の推進

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○　山口大学自己点検評価システム（YUSE）を独自開発し、入力率を 100 ％に維持するとともに、全教員を対象にした教育・研究・大学運営及び社会貢献活動等全般的活動評価に活用するとともに、ウェブサイトに公開するなど積極的に情報公開に努めており、さらなる活用が期待される。
○　大学が所蔵する学術資産に関するポリシーを策定し、戦略的に保存・継承を行うため、全学的に学術資産の状況調査を行い、所蔵学術資産継承事業報告書として刊行するとともに、学術資産のうち貴重品の一部を学長裁量経費により修復とデジタル化を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載９事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標
① 施設設備の整備・活用等
② 安全管理
③ 大学における情報の安全管理
④ 大学人としてのモラルの確立

平成 16 ～ 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 部局単位のエネルギー使用量、施設実態調査情報等をデータベース化したマネジメントシステムにより施設整備に取り組んでいる。
○ 既存施設の利用実態調査に基づく面積の再配分を行い、自学自習スペースやコミュニケーションスペース等の学生支援スペース（390 ㎡）、共同利用スペース（4,800 ㎡）、学生の自主活動スペース等（2,300 ㎡）を確保している。また、スペースチャージシステムを導入している。
○ 事件・事故等緊急連絡・通報体制の策定や学生の実験・実習の安全性確保のため、ライセンス制（実験・実習に必要な最低限の基礎的な知識・技術を認定する制度）を導入するとともに、安全確保マニュアル等を作成している。
○ 研究費の不正使用防止のため、競争的資金等の不正防止に関する規則の整備、不正防止対策室、納品検収センターの設置等を行っている。

【評定】中期目標の達成状況が良好である
（理由）中期計画の記載 19 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。